

「カメを通して、命と環境について考えよう」

◎学習のねらい

- ミシシッピアカミミガメ(ミドリガメ)を通して、国内における外来種の生き物の現状を理解し、環境問題についての関心を高める。
- カメとふれあうことにより生き物の命を大切にすることを育てる。

◎学習の流れ

児童の活動	指導の要点・留意点
1. イシガメ、クサガメ、ミドリガメとのふれあいを通して、それぞれのカメの特徴を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・カメとふれあう。 ・3種類のカメについて説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カメとふれあう上での留意点を知らせる。 ・実際にカメを見せながら説明する。 ・アカミミガメはアメリカなどからの外来種であることを知らせる。
2. 資料をもとに外来種のカメの現状を知り、自分の考えを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・明石市の谷八木川でのカメの生息調査の記事を読む。 ・カメの輸入実績の資料を見る。 ・外来種が増えるとどんな影響があるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲されたカメの数から気がついたことを発表させる。 ・外来種のカメが半分以上を占めていることに気づき、なぜそうなったのかということを考える。 ・日本の固有種であるイシガメが激減していることにも気づかせたい。 ・大量のカメが輸入されている様子を知ること、今の国内の自然の状況を人間が作り出ていることに気づかせる。 ・自然のバランスが崩れ、多くの生き物が絶滅に瀕していることや、農業や漁業に被害をもたらすことに気づかせる。
3. 「ミドリガメ物語」を読み、なぜアメリカのカメが日本にたくさんいるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミドリガメを悪者としてとらえない。連れてこられたカメの気持ちに寄り添うような立場で考えさせたい。 ・大きなミドリガメを見せ、飼えなくなって放してしまうことが多いことを知らせる。
4. 人間は自然とどう向き合っていくのかを考え、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・人間が自然のバランスを崩し、環境問題を引き起こしていることを理解し、自分のできることから取り組むことが大切であることに気づかせる。 ・「入れない」「捨てない」「広げない」